

[GRAPEVINE]

かぐわしき「花と緑のワイナリー」をめざして

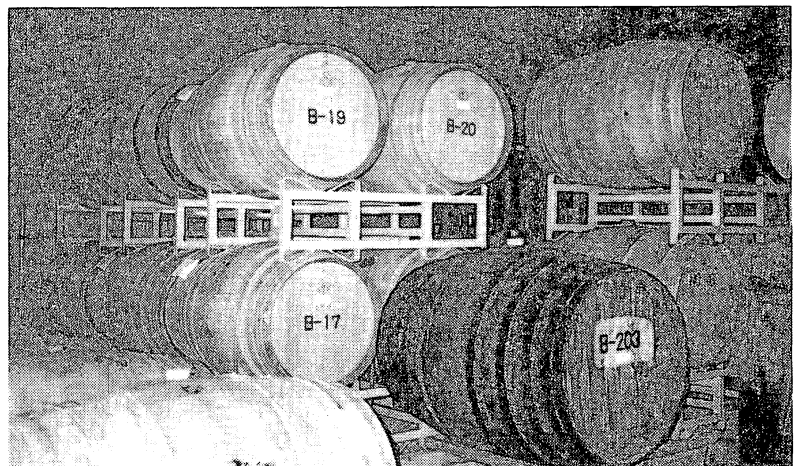
(有)朝日町ワイン 白田 重明

当社は山形市より 20km、山形盆地の西方に位置し、山伏修験者で有名な出羽三山・月山や朝日連峰・大朝日岳に囲まれた山間の町です。リンゴを基幹作物として、ブドウや洋ナシなどの果樹栽培が盛んです。特にリンゴは、無袋栽培の蜜入りリンゴとして多くの賞賛を得ております。ブドウの栽培は戦前から行われており、戦時中は山梨県と同様に陸軍の保護を受け、多くのブドウ園が残り、これまでに至っています。昭和 47 年頃までは、大手の委託加工が中心でしたが、昭和 50 年に地元農協出資の会社に朝日町が出資して第 3 セクター方式の会社運営となり、自社ブランドの新しいワイン造りを始めました。始めた当初は製造設備や醸造技術などは基礎的な知識しかなく、取りあえずは醸造技術の習得のため、当時東京都北区滝野川にあった醸造試験所に身を寄せ、技官の先生方の指導をいただいて、ワインと酒類全般にわたり研修をさせていただきま

した。その時一緒に学んだ研修生に山梨県出身者が多く、現在でもお付き合いをいただき、ワインに関する情報の交換、ご指導をいただいております。

ワインの原料ブドウは、栽培農家で組織する「朝日町ブドウ生産組合」から供給されております。農家の数は 60 戸、ブドウ栽培面積は約 20 ヘクタールで、リースリング・リオン、リースリング・フォルテ、セーベル、メルロー、マスカット・ベリー A、ブラック・クィーンなどが栽培されています。平成 4 年にはシャルドネ、メルローの垣根栽培を始め、より良いワイン造りをめざし取り組んでおります。

当社は、地元地域のブドウ生産の安定化及び特産品の開発など、地元地域との関わりが深く、そのため農林水産省の補助事業等を積極的に活用し、工場施設設



備の拡充を図っております。今回、平成 10 年度「花と緑のうおい空間整備事業」により、びん詰工程の見学やワインの試飲ができる体験施設として、ワイン城とふれあい広場及び試験ブドウ見本園を造成しました。見本園は 70 アールでカベルネ・ソービニオン、ツバイゲルト・レーベ、ミューラー・トルガウの 3 品種で垣根仕立てで栽培します。葡萄の木オーナーワイン制度は今年で 7 年目を迎え、ブドウ畑をとおして収穫と仕込み作業を体験し、ブドウ栽培の苦勞と収穫の喜び、そして自ら手掛けたワインへの夢と期待がふくらむことで、全国の方々から加入をいただいております。今後さらにワイン愛好者・消費者の方々との交流を図れるように、さまざまな企画を考えていきたいと思っております。

昭和 60 年から始めたブランデーの試験製造は、なかなか旨く行かない事ばかりでしたが、多くの方々よりご指導をいただき、平成 11 年 5 月に朝日町ブランデー「エスポワール高野」の名で発売することができました。お客様の評判も良く、限られた量ですが、品質を第一に新しい特産品として認められるように、さらに研鑽を深めて行きたいと思えます。

当社のワイン造りは甘味果実酒の原酒委託製造から始まったため、当時ワインの品質は粗悪で、今考えれば飲料に耐えられないものでした。醸造技術よりも原料ブドウの品質向上が一番と、生産組合との協議を重ね、反収の規制、栽培管理の徹底、収穫時の糖度検査などを行うとともに、補助事業による施設設備の整備を行い、ようやく朝日町に「うまいワイン」ありと言われるようになりました。ワインの消費は赤ワインブーム以来拡大していますが、国内で栽培されたブドウで出来たワインの比率は、ますます低下して行くものと思えます。東北の山形でワイン造りを続けて行く上で何が大切か、やはり「良いワインは良いブドウから」、そしてその地に根ざしたワイン造りだと思えます。今回整備したワイン城とブドウ畑をより良い空間にして、かぐわしいワインのある花と緑のワイナリーをめざして取り組んで行きたいと思えます。

以上、誠に簡単ですが表題に関し、ご報告とさせていただきます。